

令和 3 年 3 月 定例会 行政報告

1 . 一 般 行 政 報 告

1) 寄贈金品について

2) 学校法人 岩谷学園誘致について

3) 医師の採用について

令和 3 年 3 月 8 日

中 標 津 町

貴重な時間をお借り致しまして、12月定例会以後の行政報告を申し上げます。

1. 寄贈金品について

第1点目は、寄贈金品についてであります。

お手元に配付のとおり、12月定例会後に、

物品で	3件	
現金で	4件	3,150,000円
ふるさと納税で	5,059件	84,874,164円

の寄贈がございました。

また、企業版ふるさと納税制度として 令和3年2月28日現在で
2件 1,300,000円の寄附金がございました。

寄贈金品を寄せられました方々に、改めて深く感謝を申し上げます。

2. 学校法人 岩谷学園誘致について

次に、2点目は、学校法人 岩谷学園 誘致についてであります。

令和3年4月の開校を目指し、約2年間にわたり準備が進められて
きました岩谷学園ひがし北海道日本語学校は、令和2年12月17日
付けで北海道知事から設置認可を受け、令和3年2月15日付け法務
省告示として官報に掲載され認可となりました。

第1期生となる留学生は、定員50名に対し47名が合格、昨年12月に岩谷学園が法務省 札幌出入国在留管理局に合格者全員に係る在留資格認定証明書交付申請、いわゆる留学ビザの交付申請を行っていたところですが、先日、札幌出入国在留管理局長から出された結果は、47名中6名の交付決定に留まったところであります。

岩谷学園から事情を聞きましたところ、不交付の多くは、「保護者の経費支弁能力の立証が不十分」という理由であったとのことであります。学園といたしましても、横浜での経験から一定程度の不交付は想定していたとはいえ、学園本部から中標津校に応援職員を派遣し、万全の態勢で申請にあたっていただけに、想定外で大変残念な結果とのことでありました。

また、通常であれば学園職員が直接海外の現地に赴き、入学試験や面接、提出書類の指導など、きめ細かな学生募集活動が行われるところですが、世界的なコロナ禍の中、本年に限ってはすべてオンラインでの募集活動を余儀なくされたこと、さらには世界的に感染が収束しない状況で、そもそも入学を希望する学生が例年より少なかったことも影響したとのことであります。

日本語学校は予定どおり来月4月に開校、4月13日には入学式と設立記念式典が举行されることとなっております。町といたしましても、第1期生となる留学生を温かくお迎えし、誘致の会や中標津町商工会とともに、受け入れ環境の整備や多文化共生のまちづくりを引き続き進めて参ります。

また、岩谷学園が並行して検討を進めております、専門学校の開設計画につきましては、学園側の今後の検討状況を踏まえ、町としての対応を進めて参ります。

3. 医師の採用について

次に、3点目は、医師の採用についてであります。

平成28年度以降、出張医師にて対応しておりました泌尿器科についてでございますが、この度、3月1日付で鹿児島大学出身の伏谷俊作（ふしたに しゅんさく）泌尿器科医師を採用しております。

現在、町立中標津病院では経営改善に向け様々な議論を重ね病院経営改革に取り組んでいるところでございますが、医師を始めとする医療従事者の確保は最重要課題と考えております。

今後も地域医療の中核病院として地域住民に信頼され、地域に必要な医療を提供していくため一層の人材確保、経営効率化と経費削減、患者サービスの向上に取り組んでまいります。

以上、3点についてご報告申し上げ、一般行政報告といたします。